



環境支援士

発行日 2020年3月31日

発行責任者

滋賀大学「環境学習支援士」会

第24号

理事長 橋田卓也

URL : <http://shienshi.com/> Email : shienshikai@yahoo.co.jp

編集責任者 佐瀬章男

§ 2019年度滋賀大学環境シンポジウム §

理事長 橋田卓也

第11回目のシンポジウムを11月24日(日)13時より、大津駅前の滋賀大学サテライトプラザで滋賀大学社会連携研究センターの共催を得て開催しました。今年のテーマは世界で議論が進んでいる温暖化の現状を取り上げ「複合化する地球環境問題と滋賀県の取組」サブテーマは～地球温暖化の緩和と適応に向けて、必要なのは行動です～としました。講師と講演名は

○基調講演「複合化する地球環境問題にどう取り組むべきか？」安成哲三(総合地球環境学研究所長)

○話題提供「湖南省における自然エネルギーへの取組み」谷畑英吾(湖南省長)

○話題提供「滋賀県における気候変動適応への取組み」天野孝志(滋賀県琵琶湖環境部温暖化対策課長)

参加者募集の集計では77名の参加でしたが、当日の参加者は67名でした。皆さん熱心に聴講されていて、総合質疑でも司会者を困惑させるほどの質問や意見がでました。アンケート(橋本氏集計)の結果はおおむね好評でした。満足できた人の意見では、「安成先生の温暖化の地球環境問題が良く理解できた」「谷畑市長のお話が地域活性化・環境との取組みに目新しく素晴らしいと感じた」「地球環境問題をマクロの視点の話と湖南省や滋賀県の具体的な取組みで、我々が取り組むべき環境問題に一つのヒントを与えてくれた」「谷畑市長の(自覚者が責任者)というのが印象深かった」等でした。

	人数	%
満足できた	13	30
やや満足できた	29	67
やや満足 出来なかった	1	2
全く満足出来なかった		
合計	43	99



§ 鳥居本小学校出前講座 §

橋本 繁



10月15日、彦根市立鳥居本小学校の出前講座を行った。鳥居本小学校は中山道沿いにあり、近くの鳥居本中学校と小中一貫の鳥居本学園を作っている。これは、新しい考え方で、小学校、中学校一貫で地域の児童を教育していく構想とのことである。(平成27年オープン)鳥居本小学校のホームページには「学校生活」の中で、私たちの出前講座の様子がアップされている。

§ 大津市田上小学校の出前講座 §

佐瀬 章男

毎年春に申請がきていた田上小学校の川での学習出前講座を、学校の要請で今年度は秋に実施しました。

1回目は10月25日(金)5・6時限に「天神川・大戸川を調べてみよう」のタイトルで、前田氏と私が5年生2クラスを分担してPPTの映像でお話をしました。子ども達は川での現地学習がとても楽しみな様子でした。

2回目は11月1日(金)(1時限目から4時限目まで)天神川・大戸川の2班に分かれて、それぞれの川で、水質調査と生物調査を実施しました。2河川に分かれて実施するので橋田、前田、原田、川尻、三好、佐瀬の6名で3人毎に分かれて川での調査学習を担当しました。川の調査が終わった後、学校に戻ってまとめの学習に参加した。児童は片方の川しか学習できなかった不足分を、合同学習では情報交換をして天神川・大戸川の違いを学びました。大戸川ではこれまで観察しなかった「アカザ」が沢山取れたりして川の生物の多様性が学習できた1日でした。



§ 守山市立吉身小学校「やまのこ」事前学習 §

原田 義子

10月28日、去年に引き続き学校からの要望で115名4クラスの事前授業に行きました。学年を二つに分け多目的室で行いました。昨年とは違い会議机と椅子をご用意頂きました。初めに樹木の見分け方、滋賀県の面積と森林の割合、次に森林の果たす役割を丁寧に説明し、まとめに入りました。

児童たちは椅子に座っての学習・活動なので落ち着いて授業を受けていたように思いました。集中力と協力体制の作り方ではこの方策が児童にはし易かったようです。

また、この方策の方が各班のリーダーの活用によって取り組みの定着を図ることが出来ていた。

パワーポイントは、振り返りシートに基づき少しずつではあるが修正を加えながらより明確な内容になってきている。

二時間続きの授業ではありますが、児童は飽きることなく内容に食いついてきていました。知識・理解・表現・技能は客観的に見分けられるが、深層にある興味・関心・意欲はその子の中で揺り動かさない限り出てこないものなのです。「やまのこ」に活動に彼らは何を見出してくれるのだろう

§ 甲賀市立甲南第1小学校の出前講座 §

前田雅彦

甲賀市立甲南第1小学校(11/5と11/24)

甲賀市からの初めての学校として、甲南第一小学校の出前授業を行いました。初めての試みとして、乗船前に2時限の講義を行い、乗船後にワークショップを行うものです。このため今までのパワーポイントの資料に、追加の分を加えて2時限分の資料を用意しました。子どもたちは、びわ湖からは少し離れたところにある学校なので、理解してもらうように少し丁寧な説明を心がけました。子どもたちは熱心に聞いてくれましたが、さすがに2時限目の途中になると少しに疲れた様子がうかがえました。小学5年生に、同じような話を2時限も続けるのは相当な工夫が必要だと感じました。乗船後のワークショップでは、みんなで盛んな議論をしている様子を見て、授業をした効果があったかなと感じ、教師冥利を享受した次第です。この経験から、2時限続けてする授業の資料は、クイズをもっと取り入れるなど、もっと工夫の必要があると考えます。



§ 守山市立吉身小学校「うみのこ」事後学習 §

原田 義子

11月26日、秋も深まった中今回は「うみのこ」の事後学習に行きました。この5年生は4クラスでした。

「うみのこ」に乗船前には事前学習で「びわ湖の過去・現在・これから」という事で学び元気に体験学習をして帰ってからの授業でした。

今までは、2時間連続での授業なので途中で疲れたり、内容が入って来なかったりして授業に集中でき

ない児童が気になりましたが、今回は乗船後と言うことも有り何時ものWSよりは興味が持っていた様子でした。

また、この学校はグループ活動がしっかり出来ているので他校のように必要以上にグループに入り込みやヒントを言うことが少なかったです。

今後はこの方式の方が児童には身近で、体験もしているので言葉が入り込み良いように思われました。

15項目の中から3項目を選びグループ討議をし、進めて行くのですがなかなか大変なようでした。

ただ、4クラスとも講師が個性的な授業をしているのが如何なのでしょう。



§ 守山市立守山小学校 「うみのこ」 事前学習 §

橋田卓也

「未来のびわ湖人育成の学習」として12月12日(木)5年生6クラス217名のマンモス校で6名の講師で実施した。守山小は、アンリーデュナンの少年赤十字団が我が国最初に結成された学校で「気付き！考え！実行する！」の学習を続けています。学校は守山駅から10分駅前商店街の中にあった。授業では子供たちは集中して、質問も活発であった。先生方のアンケート結果は、びわ湖の学習講座の内容が多く、語句・用語に難点があるとして「内容的にやや難しい」と回答された。ワークショップでは、「前の講義が生かされて子どもたちが、グループで話し合う意見交流が活発にできる良い教材だ」「子どもたちがびわ湖に対する思いを伝えあう様子が見られ勉強になった」「子どもたちが自ら琵琶湖の問題を解決していこうという思いが感じられた」等回答されていた。後日、全ての5年生の子どもたちから感想文が届きました。子どもたちは、「早くフローティングスクールで乗船したい。」「びわ湖を自分で体験することが楽しみだ」、「授業を生かしたい」等多くの感謝の言葉が綴られていた。(講師：佐瀬、前田、三田村、原田、川尻、橋田の6名)

§ 生涯学習推進フォーラム参加報告 §

川尻耕生

10月22日に生涯学習推進フォーラムに参加しました。第一部は元JAXA研究員の小野瀬先生の講演で「はやぶさ君とはやぶさ2君の冒険」と題して、小惑星探査機「はやぶさ」は地球から約3億km離れたラッコ型小惑星「イトカワ」とランデブーに成功しその表面物を持ち帰り、「はやぶさ2」はそろばんの玉のような小惑星「リュウグウ」を訪れ様々な観測を行っているとのこと「はやぶさ」は将来の本格的なサンプルリターン探査に必要となる技術を実証することを目的とした光学技術実証のための探査機で、イオンエンジン・自律航法・標本採集・サンプルリターンの4つの重要技術の実証を証明したとのことでした。お話の中で一時通信不能となったときはハラハラドキドキし又回復し通信可能になったときはほっと胸をなでおろしました。いつまでも未成熟精神の永遠の少年にとっては興味の尽きない講和でした。

§ ローズベイガーデン自治会 「楽しい理科教室」 §

佐瀬章男

12月18日の10時～12時 会場 大津市一里山 ローズベイガーデン自治会 自治会館

講座担当：原田、三好、佐瀬

県の「におネット」ホームページからの紹介で、ローズベイガーデン自治会の依頼があった科学教室を開催しました。先方の担当者と事前に何回も実施内容の調整をした結果、科学教室に相応しい「風船で走るロケットカー」を作ることになりました。対象者は小学生で20人から30人の予定でしたが、当日は17名の出席でした。事前に自宅や合同部会で試行錯誤の結果、これなら何とか出来そうなレベルまで準備しました。苦労した点は以下の通りでしたが、会員のアイデアや努力で結果的には成功でした。

その1：ロケットカーの車輪となる「ペットボトルのふた」集め⇒三好さんが沢山提供してくれました。

その2：風船と空気を送るストローの接続（空気が漏れないように）これは参考書の本では簡単な記述でしたが、実際に作ってみると完全な空気漏れ防止は困難で、自由に変形できるシール材を色々とテストした結果、工作用の粘土を利用することで何とか解決できました。

その3：ロケットカーの土台となる段ボール紙の準備：これはスーパーで貰ってきた使用済みの段ボール箱を分解して30人分準備しました。

当日の進行状況：

9時30分にはローズベイガーデン自治会の自治会館に集合して準備をしました。

自治会からは担当の丸岡さん以下3名の方がサポートしてくれました。

参加児童は低学年が中心で、保護者同伴の参加者もいました。段ボール紙に絵の具を塗ってから乾くまでの時間がかかり、電気ストーブやドライヤーで乾かしました。風船と空気を送るストローの接続は低学年の児童には困難で、当会で担当したため予定より時間が掛かりました。

車輪の組み立ては事前に原田さんが有る程度準備してくれたので、時間短縮が出来ました。

全員が作品を完成したのは12時少し前で、ゆっくり走らせて遊ぶ時間が無かったのが残念でした。

次回に関しては担当の丸岡さんが、次年度担当者に申し送りを約束してくれました。

反省点：ある程度事前に材料の下準備等を行っていたが、参加者に低学年が多く、進行が遅れた。

この経験を今後の出前講座に生かしていきたいと思いました。



「スーパーエコスクール守山学校での取り組みから見えてきたものとは」 橋田卓也

2019年12月21日県地球温暖化防止活動推進センター主催の公開セミナーが開催された。セミナーの講演は、「3カ年にわたる中学校の体系的環境学習調査報告」岩川貴志(NPO法人循環社会システム研究所事務局長)。「その調査結果から見えてきたことと、これからの展望について」内藤正明(京都大学名誉教授)でした。パネルディスカッションは、今後の環境学習の在り方を考えるために意見交換された。守山中は新校舎建設で、「びわ湖からの風」「太陽光発電」「自然な土活用」等自然エネルギーを最大限利用することにより、「消費エネルギー0」を目指すスーパーエコスクール校として全国7番目に指定された。守山中の3年間の環境学習は、新校舎を使った「気づき、実践」で1年目は「光の授業」に、2年目は「風の授業」に取り組んだ。3年目は新校舎で学んだことを校区内の次世代の小学6年生に向けて、新しい伝統を伝える活動に取り組んだ。小6年生は「校舎を使った環境学習しっかりと取り組みたい」という感想を寄せてくれていた。(参加者:佐瀬、川島、橋田)

「森林環境教育・森林ESD」「緑の少年団」推進地域セミナー 原田義子

1月29日に令和3年度第72回全国植樹祭(滋賀県)開催を契機とした活動活性化に向けて、と言う事でのセミナーでした。

「新たな学習指導要領における森林の位置づけとその重要性」と「新たな小学校教科書における森林の記述と授業展開の可能性」についての講演が有りました。

2,020年度から変わる「学習指導要領」と「森林ESD」の捉え方として以下の7項目がある。

1. 批判的に考える力。
2. 未来像を予測して計画ういたてる力。
3. 多面的。総合的に考える力
4. コミュニケーションを取る力。
5. 他者と協力する力。
6. 繋がりを尊重する態度。
7. 進んで参加する態度など主体的・対話的で深い学びをし、持続可能な社会に向けてどうして行くのか求められる。この7項目を受けて学習指導要領について討議がされた。

また、前記内容を受けて1,教えないで学ぶことを如何に行うか。2. 例えば最近の英語教育は手段のみが協調され過ぎている等々が討議されました。このようになりに分りにくい内容かと感じました。

§ 大津市生涯学習推進会議 研修会 §

参加：佐瀬章男、三好寿津代

20200131 15時～17時15分 明日都浜大津 4階 大会議室

講演者：大津市教育委員会 教育委員長 日渡 円氏

講演の概要(学習指導要綱と生涯学習)

教育委員会のテリトリー 0歳～100歳までの人生を担当している。

- ① 学校教育 知識と価値観 「知識：不変(真理) 価値観：時代背景で変化」
- ② 家庭教育 価値観が中心
- ③ 社会教育 広い範疇 (知識も価値観も)

個々人で年代ごとに①～③のウエートは異なっていく

学校教育の中の知識は効率的に学校でまとめて進めるようになった

価値観の取り決め：学習指導要領(社会の変化に合わせて10年毎に見直し)

価値観の大変化：1) 明治維新,2) 終戦,3) 情報化・グローバル化(平成10年代から現代)

学習指導要領の時代別変遷（社会変化を背景とした「テーマ名」）

中教審が国民の声（価値観）を集約している

昭和 30 年代 系統性の重視（池田内閣）所得倍増論：軽工業の推進：繊維産業（そのための人材育成）

40 年代 教育の現代化（佐藤内閣）重工業：（造船・鉄鋼）公害が始まる

50 年代 ゆとりと充実（田中内閣）列島改造論 高度成長の価値観のピーク

平成元年代 新しい学力観

（バブル崩壊後の新しい価値観）

10 年代 生きる力

情報化・グローバル化 失われた 10 年

20 年代 生きる力

令和元年代 社会に開かれた教育課程

コミュニティースクール：未来社会に生きる子ども達にどう教育をしていくか



§ 大津市環境フォーラム意見交換会 §

前田雅彦

今回、大津市環境計画(計画期間平成 23 年度～平成 32 年度)が見直されるのに伴い、市民、団体、事業者から広く意見を聞く会が催された。まず、大津市の環境政策課から「大津市の環境の現状と環境基本計画について」の説明が約 40 分あり、人口減少が見込まれる中、コンパクトな街づくりで、自然との共生を図り、健康で快適に暮らせるまちづくりを目指している、現状の説明があり。その後、「1. 自然との共生」「2. 資源の循環」「3. エネルギーと地球温暖化」「4. きれいな空気・きれいな水・住みよい街」「5. 環境教育」の 5 つのグループに分かれて、今後の大津市の環境問題について意見交換会を行った。約 60 名の参加者がそれぞれ意見を述べ合った後、各グループからその内容について発表があったが、特にこれはという意見はなかったと感じた。もっと事前に中身について、具体的な提示がなければ、よい意見は出にくいのではと感じた。あまり意味のある意見交換会とは感じなかった。

§ 第 19 回草津市子ども環境会議 §

橋田卓也

2020 年 2 月 2 日(日)12:30～16:00 草津クリーンセンター 2 階の展示場で開催され、119 団体参加しました。テーマは、「ずっと続く・ずっと守る大好き！草津」で大人から子供まで楽しく環境を考え交流する場になりました。私たちは、「地域・学校・企業の皆さんへ環境学習出前します！」「未来のびわ湖人育成のための学習支援活動」のタペストリーを展示しました。子どもたちとは、山・川・湖のつながりの大切さ語り、「びわ湖クイズ・どんぐりクイズ」で交流を深めました。エコ活動ラリーで、子どもたちブースへ行きましたが、参加団体が多く全てを回り交流するには時間足りませんでした。多くの素晴らしい活動の壁新聞が展示されていました。渋川小学校は、1 年生から 6 年生まで郷土の山・川・里・湖について学び自分たちで考えた壁新聞を掲示していましたが、なかでも 5 年生の郷土料理・6 年生の世界農業遺産への取組に感銘を受けました。(参加者:佐瀬、奴賀、橋田)



§ 令和元年度「しが子ども体験活動実践交流会」 §

佐瀬章男

主催滋賀県・滋賀県教育委員会 参加者：原田義子、佐瀬章男

開催趣旨：子どもの体験活動や青少年教育に関わる機関・団体の企画運営担当者等を対象に、事例発表や意見交換等を通して、青少年の体験活動の充実や活性化を図るとともに、各機関・団体の連携を推進する機会とする。

- 1、参加対象・「しが子ども体験学校」「地域で学ぼう『出前講座』」事業実施団体
 - ・行政関係者（市町教育委員会で子どもの体験活動を担当する職員）
（公民館・コミュニティセンター等で子どもの体験活動を企画運営する職員）
 - ・学校教育関係者、社会福祉協議会、青少年教育団体等

- 2、日時 令和2年2月7日(金) 13:30~16:30
 3、会場 県庁新館7階大会議室(大津市京町4丁目1-1)
 4、内容

13:35~14:00事例発表①「通学合宿等地域での子どもの体験活動」の取組

湯田小・浅井中通学合宿(長浜市) 浅井湯田地域づくり協議会
 会長伊藤英司氏 事務局長中川仁男氏

※この発表では自治連合会や「こども夢基金」の予算で運用し、参加者や保護者の評価は良いが、子どもが多忙で参加者確保が難しくなっている、という報告でした。

14:00~14:25事例発表②「しがこども体験学校」事業実施団体の取組

ボーイスカウト流夏休み自然体験イベント 日本ボーイスカウト滋賀連盟
 県連盟コミッショナー安居祐治氏

※この発表ではボーイスカウト会員以外を対象の事業を実施して、各地でイベントを開催したが、ウォーキング等の体を動かすプログラムは人気がなく、料理とか魚とり等が人気だった。

子どもたちがもっと、山登りとか運動に興味をもってくれるプログラムの検討をする。



休憩

14:35~16:10アピールシートを活用した交流及びグループ討議

※最近県で実施している全体共有の「ワールドカフェ」方式で実施したが、時間的な制約があり十分な意見交換や共有は出来なかった。

16:10~16:30質疑応答・アンケート記入 閉会

「やまのこ」出前講座の取り組み

園田敏郎

事前学習を取り組んだ学校の「やまのこ」の学習を見ていると、取り組んでいない学校とで活動状況が全く違うということが分かった。

- ・教師の取り組み方が違い、教師に意識が全く違う。それに合わせるかのように児童達に意識が違う。(学年全員の先生との打ち合わせの充実)
- ・児童の興味・関心・意欲が高まれば、自然に対するものの見方や接し方が違ってくる。その一例が子どもたちの行動に表れている。思考が言葉になり、言葉が行動になって出てきている。多くのサポーターさんたちがこの学校は「なんでも興味をもって聞いてくる」と口をそろえて言われているのを聞くとより取り組みの重要性を感じる。
- ・後半、リーダーを育てるための布石を打った学校と、打っていなかった学校とでは、グループ活動での様子や状況が違う。協力するということの大切さも授業を通して体験させておきたい。
- ・徐々に改良してきた授業の内容はほぼ完成に近いが、後は時間を使いながら、児童たちの「学び」をどう定着させ、どう「学び」を深めさせるのかに、重点を移していきたい。子どもの疑問を発現できる時間確保。
- ・事後指導の取り組みに際して、もう少し内容を豊かにしていく必要がある。(工夫が必要) また、雨天時の取り組みをどうするのか。雨天時のバージョンを作成する必要がある。現在、制作中の「植物のふしぎ」「動物のふしぎ」等何種類か作っておく必要がある。学校の選択制に。
- ・各学校の特色にもよるが「やまのこ」にて学習している学校で、物見遊山に来ている学校の実態がある。先生がまったく指導しない、指導したくてもできない。ただ、児童たちが野放図にしているのを眺めている状態を今年も残念ながら数多く見かけた。⇒「事前学習」の大切さ確認。

少しずつ実績を積み上げてきたが、既に何校かは次年度の依頼を聞いている。活動日が偏っているため調整が難しくなりそうである。

「やまのこ」出前講座の下期実績一覧

月日	時限	事前・事後	学校名	組数	講師	スタッフ			
9月9日	3・4	事前	石部南	1	園田	原田	川島	三好	
9月19日	5	事後	石部南	1	園田	原田	川島	三好	川尻見学
9月24日	3・4	事前	治田	3	園田	原田	川島		
9月26日	1・2	事前	立入が丘	3	園田	原田	川島	三好	
10月2日	3・4	事前	玉津	1	園田	原田	川島	三好	
10月4日	5・6	事前	大宝西	3	園田	原田	川島	三好	
10月9日	3~6	事前	守山	6	園田	原田	川島	三好	
10月15日	2	事後	立入が丘	3		園田	原田	川島	三好
10月18日	6	事後	治田	3		園田	原田	川島	三好
10月23日	3	事後	大宝西	3		園田	原田	川島	三好
10月28日	1~4	事前	吉身	4	園田		原田	川島	三好
11月5日	1~4	事前	河西		園田		原田	川島	三好

「うみのこ」出前講座下期一覧

学校名	月日	組数と児童数	担当者	依頼内容
長浜市長浜北小	10月4日	4クラス 137名	橋田・佐瀬	講座のみ 2クラス毎
彦根市鳥居本小	10月15日	1クラス 26名	橋本	講座とWS
守山市吉身小	10月16日	4クラス 130名	前田・原田 川尻・佐瀬	講座のみ WSは乗船後
大津市田上小	10月25日	2クラス 70名	佐瀬・前田	専用講座のみ
大津市逢坂小	10月29日	2クラス 72名	橋田・橋本	講座とWS
大津市田上小	11月1日	2クラス 70名	橋田・前田・三好 佐瀬・下山・川尻	天神川・大戸 川 水質・生物
甲賀市甲南第一小	11月5日	2クラス 53名	橋田・前田	講座のみ 2時 限
甲賀市希望ヶ丘小	11月13日	3クラス 97名	橋田・橋本・原田	講座のみ
守山市吉身小	11月26日	4クラス 130名	前田・原田 川尻・佐瀬	WSのみ
甲賀市甲南第一小	11月29日	2クラス 53名	橋田・前田	WSのみ
甲賀市希望ヶ丘小	12月3日	3クラス 97名	橋田・橋本・原田	WSのみ
日野町桜谷小	12月9日	1クラス 13名	佐瀬	講座とWS
守山市守山小	12月12日	6クラス 217名	前田・原田・三田村 橋田・川尻・佐瀬	講座とWS

毎月の定例会では、地球温暖化に関連したテーマを取り上げて、各担当者がそのテーマについての話題提供を行い、会員との自由闊達な議論を行い、問題がどこに有るのか、解決策はどうすれば良いのかの議論を行った。このことを通じて、部員の老化防止につなげたいと考えている。緩和策と適応策のアプローチは今までと同じである。

又、関連のシンポジウムやセミナーも積極的に参加し環境問題の課題確認と部員間の共有化を行った。

【緩和策】

○「太陽光エネルギーの利用とその限界」について（2019年10月）

元北大触媒化学研究センター佐藤しんり氏の総説を基に議論を行った。太陽光エネルギーの量は一般に考えられてほど多くはないと事である。エントロピーという概念を用いる必要がある。

○「滋賀大学環境シンポジウム参加」(2019年11月)

○「代替肉と昆虫食で森林衰退・環境汚染と食料不足の緩和」(2020年1月)

2018年には欧州で「EU新食品規定」が施行された。これは、昆虫を食料として認めることを明記したものである。現在約19億人が2000種類の昆虫を食している。FAOからも昆虫利用の報告書が出ている。これを踏まえて議論。固定概念との折り合いが重要という事で意見の一致をみた。

【適応策・その他】

○「光合成の進化」(2019年9月)

生物の進化の7大イベントに光合成がある。植物は光合成の際に発生する酸素をどのように無害化するのかについての最新の研究成果の発表(2論文)を聞き、家庭菜園での苗植え、施水の時期についてまで議論が広がった。

○「ウナギやワカサギの減少の一因として殺虫剤が浮上」(2019年12月)

産総研の研究内容を紹介して、議論を行った。ネオニコチノイド系農薬が使われた時から、宍道湖でのウナギ、ワカサギが減少している事実を、湖底堆積物の有機物濃度、プランクトン生息密度から考察。びわ湖ではどうなっているのかの議論を行った。

○「特許ウオーズ」(2020年2月)

10年後の技術覇権を競う米・中に対して特許的に日本が如何に立ち遅れているかについてデータ紹介があり、我々の行うべきことは何かの議論を行った。身近な所から、子供達に科学の面白さを伝えていく必要があるとの事で意見一致。実際紙飛行機を作り、それをグランドで飛ばし、飛行状態について、ベルヌーイの定理にまで話が展開。

今年度の総会について

日時：2020年5月9日(土) 13時～ 総会 14時30分～研究発表会

会場：滋賀大学 大津サテライトプラザ

* 詳細は同封の別紙総会案内書を参照ください。

編集後記

国内で1月下旬から始まった新型コロナウイルスのニュースは連日各メディアで報じられています。クルーズ船「ダイヤモンド・プリンセス」では、約3,700名の乗客と乗員で700名以上が陽性となり、政府の対応が色々と非難されていますが、アメリカではこの船を「完全培養空間」と報じたメディアもありました。しかし大多数の人数を収容する施設も受け入れ体制も無い環境では致し方ない処理と言えます。

アメリカ国内でも感染者が3万名を超えて、対岸の火事と非難した事がわが身に降りかかっています。

3月2日(月)より学校も休校となり、今後の学習計画に大きな支障がでるのではと心配ですが、特に新学期からの総合学習の計画にしわ寄せがくると困ったこととなります。4月の新学期が例年通り開始されれば良いのですが、万が一新学期にもずれ込むことがあれば、「うみのこ」出前講座の申請にも影響は避けられません。早く収束宣言ができればよいのですが、以前のサーズやマーズでも半年はかかっています。

勿論オリンピック東京大会も暗雲がただよっていますが、科学技術の発達した現代社会でも、まだまだ人類の力には限界が感じられる、今回のコロナ事件です。皆さんお気を付けて活動して下さい。